



現役薬学部女子学生と語る ～女性薬学研究者育成チームPOLISH座談会～



前回に引き続き、薬学部4年生女子4人とPOLISHメンバーの女性教員と行った座談会の様子をご報告いたします。第二回目のテーマは「分野決定について」。これから分野選択を迎える1～3年生にとって必読です。

Aさん 創薬科学科（臨床系）

Cさん 創薬科学科（生物系）

Bさん 薬学科（臨床系）

Dさん 創薬科学科（有機系）

一現在所属する分野（研究室）を志した理由を教えてください

Aさん：臨床系研究室所属です。臨床系がずっといいなと思っていました。薬を創ることに一番近いイメージがあったので。

Bさん：臨床系所属です。私も臨床系に興味があり、薬学科の先輩が多いので、就職や実習の話が色々聞けるかと思ったので、今の研究室を選びました。

Cさん：生物系所属です。元々研究者や研究に興味があり、主に臨床系、生物系の研究室見学に行きました。

生物系は「体の中で何か起こっているんだろう？」ということそれぞれの分野がそれぞれに特化して調べていて、「創薬に活かしたい！」という目的で研究を行っているのがわかり、自分の興味が一番合っていました。今の研究室の教授とお話をしてみて、「もっと知りたい」と思い、さらに興味が沸いたのも一つです。ドクター（博士課程）の先輩が多くて、研究に熱中している先輩がいる環境が良いのもあり選びました。先輩を見てどういう修士・博士の先輩になりたいか自分と重ね合わせて、理想が一番近い先輩がいる研究室が選ぶポイントになりましたね。

Dさん：有機系所属です。元々は高校の時ニュースで見たある大学の生物系の研究に感銘を受けて、生物系に興味がありました。

実は、有機系は食わず嫌いをされていて苦手だな...と思っていたのですが、結果的に有機系の研究室に配属されました。今は（有機系は）こういうことをしていたんだ...と少しずつ知識が入って来たのと、ものづくりに直結すると感じて、興味をもって取り組んでいます。

一皆さん、分野選択は希望通りでしたか？

Bさん：私は第一希望に配属されました。

Aさん：私は元々薬学科志望で、薬学科でない（臨床系）〇〇分野への配属希望は通らないと思っていたので、創薬科学科になった時点で諦めていたのですが、奇跡的に第一希望の〇〇分野に入れました！

教員：〇〇分野は例年4人配属なんですけど、今年は創薬科学科1人入れる枠があって、そこに入れたんですね。結果的に希望が叶ってよかったですね！

Dさん：私は生物系の希望を書いて、他の分野を挟みつつ（配属になった）〇〇分野を書きました。有機系が苦手だと思っていたのに〇〇分野に配属された時は、「どうしよう...」と思ったのですが、入ったら基礎をきちんと教えていただいたので大丈夫でした！

一分野選択にあたり、どんな情報があったらよかったと思いますか？

Aさん：研究室に入る直前まで、研究してる自分のイメージが湧かなくて...。教授の話聞いても、難しい機械を使ってる話など、それを私達が本当にやるの？と、実際何をやっているのか分かりませんでした。実際何をやってるのかを知れたらいいと思います。

Cさん：（配属前は）研究室のことが全然分からなかったんで、研究内容を聞いても難しいとは思いますが、どういう雰囲気の研究室があるのかが分かたら助かったと思います。物理系・生物系・有機系・臨床系の分類もよく分からなかったんで、どちらの学科の先輩が多いのかも分からなくて...

ふわっと雰囲気だけでも分かったと自分の目標が定まるので、モチベーションに繋がったかなと思いました。

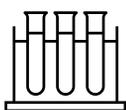
Dさん：あと、この研究室出身の人はどういう仕事に就いてるかとかが分かると、研究室の雰囲気やテーマがわかりやすくなると思うんですね。この研究室でこんな研究していると、開発職に就く人が多い、研究職につく人が多いとか。研究室の名前だけでは、研究内容をイメージしにくいので。

一どのくらいのタイミングでそういう機会があるといいでしょう？

Cさん：1年生の薬学概論と同じ時期であると嬉しいですね。それぞれの先生がオムニバス形式で研究内容を挟みながらやってくれるので、もっと自分の興味で話を聞けたり、研究室の内容や雰囲気も分かると、概論の話ももっと興味を持って聞けるかなと思いました。

教員：概論では1年生に広く分かりやすく話をしてと思うので、研究室や研究の話に繋げるのはなかなか難しいですね。希望調査の直前（3年次）に分野説明会がありますが、もしかしたらその前にも学年に合わせて内容を替えて、段階的に各研究室の研究について説明していければよいのかもしれないですね。

一例年だと配属分野希望調査の前に対面の分野説明会がありますが、昨年度はコロナの影響でオンラインでした。役に立ちましたか？



Cさん：オンライン説明会がなければ何も分からなかったと思います。あれを見た後に、見学に行く研究室を選びました。



一分野選択にあたり、女性教員の有無を考慮しましたか？

Cさん：特に性別は考えたことはなかったです。どちらかと言うと指導の仕方、今後の方針と一緒に考えてくれるかの方を重視しています。逆に女性の先生がいるところはどういう感じか分からないので...

Aさん：研究室に入る前は女性の先生がいることは気にしていなかったのですが、先輩から話によると、学生を含め全体的に女性が多い方がプラスの印象で聞いていました。

Bさん：選ぶ時には考えてなかったのですが、個人的には男性よりも女性の方が話しやすいので、いてくださると嬉しいです。



Dさん：自分以外男性だったら...少し不安になるかもしれません。有機系の学生は女子が少ないので、女性教員がいてくださるとありがたいと思います。

一みなさん、貴重なお話をありがとうございます。

本来であれば学生実習や学生が企画する研究室・系単位のイベントなどが、学科や各研究室の雰囲気を知れるいい機会なのですが・・・。コロナ禍においてそのような活動も制限されている状況ですので、上や横とのつながりが薄い1~3年生にとって、きっと今日お話しいただいた内容は参考になるとと思います！

第2回 分子変換化学分野 熊田佳菜子

女性教員リレーコラム



自分の信じた道を突き進むのみ！

分子変換化学分野の熊田佳菜子です。早いもので東北大学の教員になってからもうすぐ7年が経とうとしています。私はここに来る前は製薬会社で研究員をしておりましたが、大学で基礎研究をしていたときのワクワクが忘れられず大学教員になりました。アカデミックの道に進むとなると、博士課程を出てそのまま大学教員になると思われがちですが、実際には私のように企業経験を経てアカデミックの道に進む人も結構います。実はPOLISHのメンバーも全員企業経験者なんです。私はこの道に進むまでに少し回り道をしました。自分の好きなことに挑戦するのに遅すぎるということはないと思います。そして、企業での経験は決して無駄ではなく、研究を考えるうえで役に立っています。自分の信じた道を突き進むのみ！

POLISHの活動について、皆さんからのご意見・ご要望・ご感想などをぜひお寄せください

発行・編集：東北大学大学院薬学研究科
女性薬学研究者育成チーム POLISH

polish@mail.pharm.tohoku.ac.jp（事務局 佐藤由紀）